〔東京家政大学研究紀要〕第 57 集（1），2017，pp.115 ～ 120〕

小学校教員養成課程学生の教員への意欲の変容とその要因［Ⅱ］
―Ｔ大学の学生を対象に―

山口　佳代
（平成 28 年 12 月 8 日査読受理日）

A Study on the Motivation of the Students in the Training Course for a Teacher's License［Ⅱ］

YAMAGUCHI, Kayo
（Accepted for publication 8 December 2016）

キーワード：キャリア支援，教員養成，小学校教員への意欲
Key words：Support for career, Teacher training, Motivation to be a teacher in an elementary school

1　はじめに

2011 年大学設置基準が改正され「大学は，当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ，学生が卒業後自らの資質を向上させ，社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を，教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう，大学内の組織間の有機的な連携を図り，適切な体制を整えるものとすること.」[1] と，規定された．このことにより大学ではキャリア教育，キャリア支援の一層の充実を図るよう求められている．教員養成大学においても学生支援の充実や卒業後の進路を重視し，社会的及び職業的自立を図れるような課程のあり方の模索が続いていると考えられる．教員養成課程は教員になることを目的とするため，入学してくる学生は卒業後の進路として教員を目指し４年間を過ごすこととなる．調査対象のＴ大学小学校教員養成課程の特徴としては，幼稚園教諭の免許または中学校教諭の免許が副免として取得可能であり，それぞれの教育実習は時期が異なっていること，小学校の教育実習に関しては最終学年である４年生前期に４週間行うこと等がある．また学生への小学校教員採用試験対策や個別面接相談等のサポート体制も取り入れられている．

本調査の目的は，小学校教員養成課程学生の職業決定要因を分析することにより，学生へのキャリア支援の促進を実践していく方法の示唆を得ることである．山口・福田（2016）は小学校教員への意欲を５つのパターンに分類し，それぞれのパターンにおいて小学校教員への意欲に変化を及ぼした要因を検討した[1)]．本調査においては小学校教員への意欲が４年間でどのように変化をしたか，また要因は何であったかを前年度と比較検討しＴ大学の傾向をより特徴づけることを試みる．これまでは小学校教員への意欲の変化とその要因に関して４年間の全体の傾向を把握するのにとどまってしまったため，本研究では意欲を変化させた要因の時期を特定することを加え，各学年の変化及び要因のより深い考察を行う．学生の意欲の変化またその要因が何であるか，及び時期がいつであるかを把握し適切な支援へとつなげていくことは学生の職業決定に影響を与える一つの重要な要素になるのではないかと考える．

児童教育学科

2　方法

（1）調査対象

Ｔ大学　児童教育学科　小学校教員免許状取得希望者
2015 年度４年生 85 名（回収率 100％）

（2）実施期間

2016 年１月～３月
大学における授業終了後に調査用紙を配布し，順次回収した．

（3）調査内容

① ４年間における「小学校教員への意欲」の変化について，入学時から１年生，２年生，３年生，４年生の各前期・後期において，小学校教員へ就きたい意欲がどの程度であったかを，「とても就きたかった」，「やや就きたかった」，「どちらとも言えなかった」，「あまり就きたくなかった」，「他の職業を考えていた」の５段階から選択する．

② 「小学校教員への意欲」に変化のあった学生には，そのきっかけとなったことについて，「a. 小学校教育実習」，「b. 大学の授業」，「c. 両親や兄弟の影響」，「d. 友人の影響」，「e. テレビやインターネットなどのメディア」，「f. 幼稚園教育実習」，「g. 中学校教育実習」，「h. その他」

の項目から選択する（複数回答可）．また，選択した要因に関して変化のあった時期，その要因の詳しい内容を記述．

（4）調査内容の検討方法

① 2014 年度 4 年生との比較

- 「小学校教員への意欲」について入学時の比較
- 4 年間の「小学校教員への意欲」パターン別の比較（パターンの分類方法は前回と同様）
- 「小学校教員への意欲」に変化のあった学生の要因の比較

② 時期別による意欲の変化と要因

- 「小学校教員への意欲」の上昇・下降
- 「小学校教員への意欲」時期別の要因

3　結果と考察

（1）2014 年度との比較

まず，図 1 は入学時の「小学校教員への意欲」について 2014 年度 4 年生と 2015 年度 4 年生を比較したものである．2015 年度の 4 年生は「とても就きたかった」25 人（29.4%），「やや就きたかった」21 人（24.7%），「どちらともいえなかった」19 人（22.4%），「あまり就きたくなかった」2 人（2.4%），「他の職業を考えていた」12 人（14.1%），未記入 6 人（7.1%）となった．未記入の 6 人は入学時のみ「小学校教員への意欲」の欄が空欄であったが他の箇所に関しては調査対象とすることに問題がなかったため以後の母数に含めていく．

図 2 は 2014 年度 4 年生と 2015 年度 4 年生のパターン別の割合を比較し示したものである．「A パターン：入学時の値から下降現象がみられ，4 年生にはその最低値より高くなっている」24 人（28.2%），「B パターン：入学時の値より上昇し，4 年生に最高値になる」16 人（18.8%），「C パターン：入学時の値より下降し，4 年生に最低値になる」15 人（17.6%），「D パターン：入学時の値から上昇し 4 年生にはその最高値より低くなっている」16 人（18.8%），「E パターン：入学時から一貫して値の変化がなかった」14 人（16.5%）となった．

図 3 は 2014 年度「小学校教員への意欲」に変化のあった学生（95 名中 73 名）と 2015 年度「小学校教員への意欲」に変化のあった学生（85 名中 71 名）の変化の要因の比較

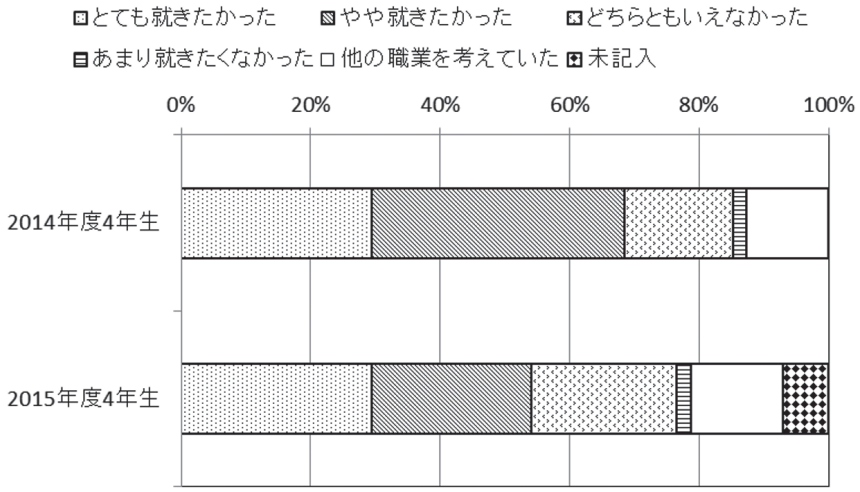

図 1　入学時の「小学校教員への意欲」の比較

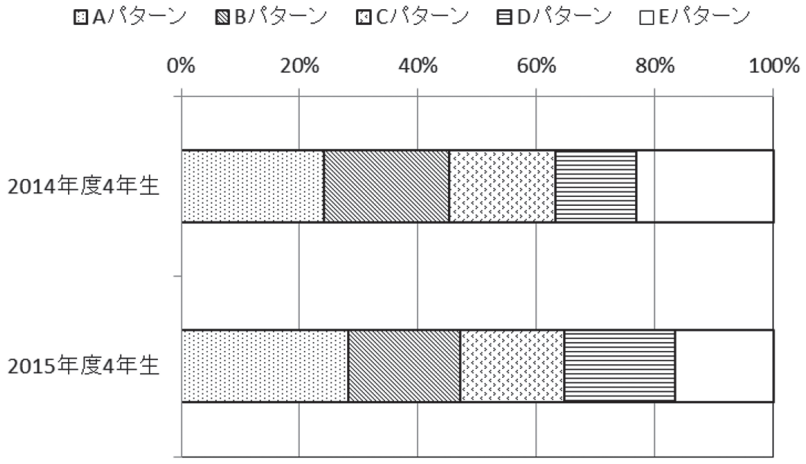

図 2　パターン別の比較

である．2015 年度 4 年生の要因は「a. 小学校教育実習」40 人（47.1％），「b. 大学の授業」32 人（37.6％），「c. 両親や兄弟の影響」4 人（4.7％），「d. 友人の影響」7 人（8.2％），「e. テレビやインターネットなどのメディア」6 人（7.1％），「f. 幼稚園教育実習」12 人（14.1％），「g. 中学校教育実習」２人（2.4％），「h. その他」23 人（27.1％）となった．一つの変化の要因を時期別に複数回答をしていても１人１カウントする．

以上，２年間における年度別の比較の内容結果から，T 大学における傾向をより特徴づけることができたと思われる．また本調査では前調査同様に５つのパターンに分けて小学校教員への意欲を表したが，2014 年度卒業生，2015 年度卒業生ともに A パターンの人数が最も多かった．また小学校教員への意欲に影響を及ぼす要因として最も人数が多かったのが 2014 年度卒業生，2015 年度卒業生ともに小学校教育実習である．教育実習が教師志望度に影響を及ぼすことは多くの研究により指摘されている．また，（２）の時期別による小学校教員への意欲の変化要因の分析結果において要因が小学校教員への意欲を上昇させたか，下降させたかの結果と合わせて考えると，要因となっている小学校教育実習は小学校教員への意欲を上昇へと転じさせている学生の方が多かったが意欲を下降させている学生もいる結果となった．中央教育審議会（2015）答申の教員養成に関する課題において，「実践的指導力の基礎の育成に資するとともに，教職課程の学生に自らの教員としての適性を考えさせる機会として，学校現場や教職を体験させる機会を充実させることが必要である．」とし，学校インターンシップ導入の検討が示されている[2]．事前事後指導を含めた教育実習，学校インターンシップのあり方，また重要性を改めて考えさせられる結果となったのではないか．

またＥパターンにおいては 14 人中，「とても就きたかった」を４年間維持した学生が 11 人いる一方で，「あまり就きたくなかった」を貫いた学生が１人，「他の職業を考えていた」を貫いた学生が２人と一貫して意欲の低い学生もいた．

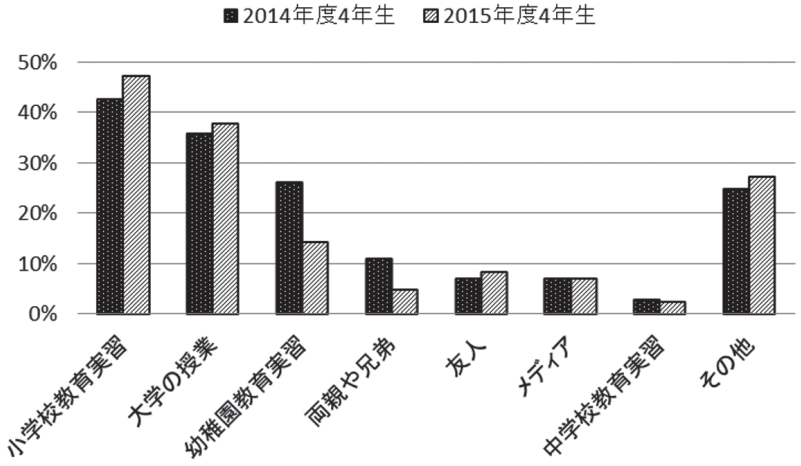

図３　「小学校教員への意欲」に変化を及ぼした要因の比較

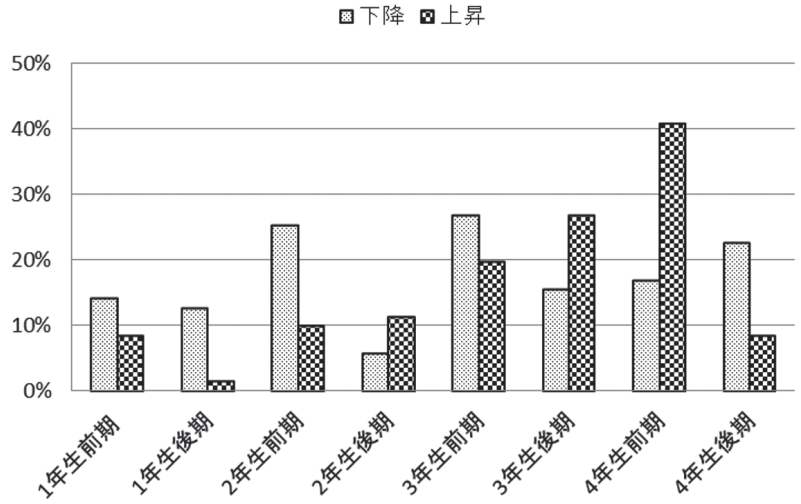

図４　「小学校教員への意欲」時期別の上昇・下降

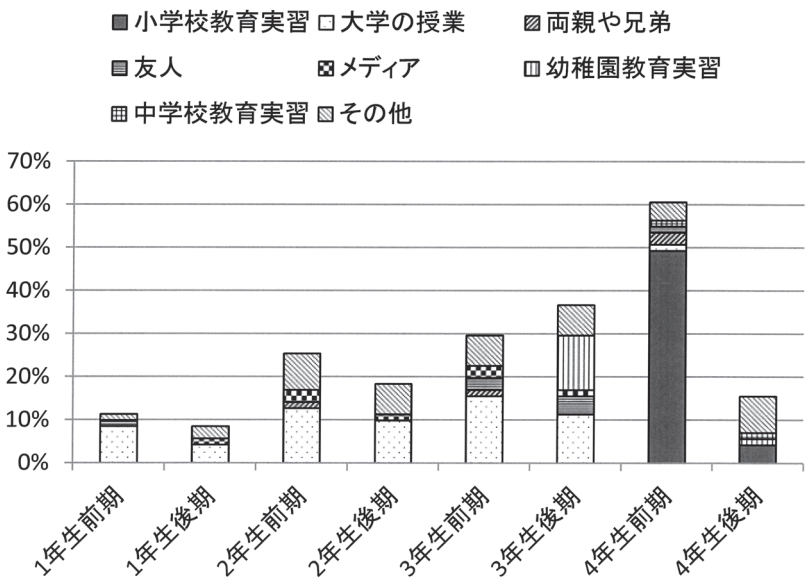

図５　「小学校教員への意欲」時期別の要因

（２）時期別による小学校教員への意欲の変化要因

時期別による変化の要因の集計は「小学校教員への意欲」に変化のあった学生（85 名中 71 名）を対象とする．

図４は①の調査において「小学校教員への意欲」がその直前の時期より上昇した人数と下降した人数の割合を表したものである．上昇または下降幅は１段階以上４段階以下となる．上昇した時期としてもっとも人数が多かったのが４年生前期の 29 人（40.8%），ついで３年生後期の 19 人（26.8%），３年生前期の 14 人（19.7%）となった．下降した時期でもっとも人数が多かったのが３年生前期の 19 人（26.8%），ついで２年生前期の 18 人（25.4%），４年生後期の 16 人（22.5%）となった．

図５は「小学校教員への意欲」に変化のあった学生（85 名中 71 名）の変化の要因を時期別に表したものである．図４において意欲が上昇した人数，下降した人数が多かった時期の要因を，選択した学生が多かった順にみていく．４年生前期は「a. 小学校の教育実習」35 人（49.3%），「b. 大学の授業」１人（1.4%），「c. 両親や兄弟の影響」２人（2.8%），「d. 友人の影響」１人（1.4%），「g. 中学校の教育実習」１人（1.4%），「h. その他」３人（4.2%），合計 43 人（60.6%）となった．３年生後期は「b. 大学の授業」８人（11.3%），「d. 友人の影響」３人（4.2%），「e. テレビやインターネットなどのメディア」１人（1.4%），「f. 幼稚園の教育実習」９人（12.7%），「h. その他」５人（7.0%），合計 26 人（36.6%）となった．３年生前期は「b. 大学の授業」11 人（15.5%），「c. 両親や兄弟の影響」１人（1.4%），「d. 友人の影響」２人（2.8%），「e. テレビやインターネットなどのメディア」２人（2.8%），「h. その他」５人（7.0%），合計 21 人（29.6%）となった．２年生前期は「b. 大学の授業」６人（8.5%），「c. 両親や兄弟の影響」１人（1.4%），「e. テレビやインターネットなどのメディア」２人（2.8%），「h. その他」６人（8.5%），合計 18 人（25.4%）となった．４年生後期は「a. 小学校の教育実習」３人（4.2%），「f. 幼稚園の教育実習」１人（1.4%），「g. 中学校の教育実習」１人（1.4%），「h. その他」６人（8.5%），合計 11 人（15.5%）となった．

意欲が上昇した割合が多かったのが多かった順に「４年生前期」，「３年生後期」，「３年生前期」となった．時期別の要因から「４年生前期」は「小学校教育実習」がもっとも影響していた．「小学校教育実習」について，意欲が上昇した要因となった学生の記述では「現場の楽しさや，やりがいを知り教員になりたいと思った」「教育実習に行き子供達と直接関わることでより教員になりたいと思った」等があり，複数みられた記述の内容は「楽しかった」「やりがい」「子供達との関わり」であった．また下降した要因となった学生の記述では「自分には向いていない」「やりたいことと違う」等であった．「３年生前期」においては意欲が上昇している学生もいたが，意欲が下降している学生がその他の時期と比べて最も多く，ついで，「２年生前期」となった．要因の「大学の授業」について，意欲が上昇した要因となった学生の記述では「大学でしっかりと教員についての学習をすることにより教員になりたい気持ちが大きくなった」「授業をうけているうちに小学校の教師になりたいと思った」といった記述がみられた．３年生からは実践的な授業も増え，４年生で教育実習に行くことを考えるとより具体的な教師像をイメージし，実践に向けた教職観を膨らませながら意欲を上昇させることが望まれる．また下降した要因となった学生の記述では「自分は向いてない気がした」「教師という責任のある仕事を果たせるのか不安になった」といった記述であった．下降した要因の記述で複数の学生の記述にみられたのが「不安」「模

擬授業」「自分には向いていない」といった内容であった．この「不安」ということに関して，久保（2011）によると「不安」は情緒的なもので具体的に何が不安なのかを明らかにできるよう支援することで対処していくことが可能となる[2)]，といった指摘がある．また要因の「h.その他」について上昇した要因となったのは「ボランティア」という言葉が複数の記述でみられ，また，このボランティアは下降した要因でも記述している学生が複数いた．下降した要因の内容としては「自分のやりたい仕事が何かを考えて他の職業が浮かんだ」等の記述があった．山口･福田（2016）においてもボランティアという記述がみられた[1)]ことから，ボランティアが学生の意欲を高めていくようなあり方，また何か困難にぶつかったときに対処していけるような支援のあり方も検討する余地がある．

４　まとめと今後の課題

本調査はＴ大学小学校教員養成課程における傾向を把握することによってＴ大学におけるキャリア支援への示唆を得ることを目的としてきた．本調査において明らかになったことは大きく分けて二つである．一つ目は，Ｔ大学小学校教員養成課程の2014年度，2015年度各４年生において４年生前期における小学校教育実習は教員への意欲を変化させる要因として最も多くなっていたことを含め，「小学校教員への意欲」の変化は同様の傾向がみられたことである．二つ目は2015年度４年生おいて学生の記述から大学の授業における模擬授業や，学外でのボランティア活動，教育実習などの体験する活動は教員への意欲を上昇させる要因にも下降する要因にも影響を及ぼすことが明らかとなった．

小学校教育実習は４年生の前期に行われるため，その後控える採用試験のことを考えるともう少し早い段階から教員への意欲を高めていけるような大学としての体制が必要とみる見方もあるかもしれない．教員養成課程では入学時から教員を目指すことを目的としたカリキュラムが組まれているが４年間の間に学生は教員へなっていくことに様々な思いを抱き大学生活を送っている．教員採用試験対策の強化などの就職支援は今後の教員需要から考えても必要なことであるとともに，「小学校教員への意欲」を様々に変化する学生がいることを踏まえたキャリア支援のあり方を模索することも必要と考える．

本調査としては４年生の卒業前に行っているということで回想による回答も含むものであり，１，２年生において要因を選択した学生が少なかったのは時間の経過による可能性も否定できない．今後の課題として，カリキュラムの影響や，教員との関わり，心理的変化など細かな調査を合わせた検討を複数の年度に渡って行うことで教員養成課程におけるキャリア教育，キャリア支援のあり方を深めていくことができるのではと考える．

今回の研究は2016年日本キャリア教育学会第38回研究大会において発表したものに加筆したものである．

謝辞

研究当初より多大なご協力とご支援を頂き，今回の研究にあたりましても貴重なアドバイスを頂きました福田啓子先生（東京家政大学）に心より感謝申し上げます．またアンケート調査にご協力いただいた皆様に感謝の気持ちと御礼を申し上げます．

註

１］文部科学省：大学設置基準及び短期大学設置基準の改正について（諮問）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1289824.htm（2016.9.30参照）

２］文部科学省：これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf（2016.9.30参照）

参考文献

１）山口佳代・福田啓子（2016）「小学校教員養成課程学生の教員への意欲の変容とその要因－Ｔ大学の学生を対象に－」東京家政大学研究紀要，第56集（１），pp.179-185

２）久保順也（2011）「初等教育教員養成課程における学生の教職意識の形成プロセスに関する縦断的研究（３）」宮城教育大学紀要，第46巻，193-202

Abstract

The objective of this study was to propose a method to enhance the motivation of students in the training course for a teacher's license by analyzing the factors which influenced the students' motivation, and their occupations after graduation.

Yamaguchi and Fukuda (2016) conducted a survey on the motivation to become a teacher with students who were to receive their teacher's licenses. The changes in the level of motivation during the four years of the training course were categorized into five typical patterns. Then the factors which influenced each pattern were analyzed. Following this, a similar survey was done with graduating students the next year. This second survey had more detailed questions than the previous survey about students' motivation broken down by semester as well as by year to obtain a clearer view of the changes in the levels of motivation.

The results of the study are summarized as follows.

1) There was little difference between this study and the previous one.

2) One of the factors which lowered motivation for first and second-year students was 'school lessons'.

3) The factor which considerably raised motivation among the third and fourth-year students was 'on-the-job-training in an elementary school'.

4) There were more useful suggestions to help students keep their motivation high in the second survey than in the previous study because of the added semester questions on the questionnaire.